

もの言う牧師のエッセー 第94話

「松井ヤンキース復帰」

7月29日、松井秀樹がヤンキーススタジアムへ帰って来た。車に乗ったスーツ姿の彼がセンターから現れ、自分の守備位置だった左翼を回ってホーム付近へ。スタンドに手を振り、ファンはスタンディングオベーションで応じる。そして、1日限定のマイナー契約を結んでヤンキースのメンバーとなり参加した自身の引退セレモニーはいよいよクライマックスへ。ホームベース付近に設置されていたデスクで引退を確認する書面に署名すると、主将のジーターから額に入った55番のユニホームが送られ、選手らと写真撮影。その後の始球式でピンストライブのユニホームに袖を通して再び大歓声が響き渡る。

「球場に入った瞬間から泣きそうだった。言葉にならないくらいの感動。生涯忘れられない日」と話す彼。「現役を引退した時はこの様な引退式をしてもらえるとは思っていなかった。幸せです」とも。それにしてもメジャーリーグで“引退式”をするのは極めて異例だ。他球団で引退した選手と1日契約するのは、近年では2007年1月、ヤンキースのジェフ・ネルソン投手の例があるが、春季キャンプに合流して引退しただけのものだった。松井が特別な存在だったことは疑う余地がない。

思えば2009年のワールドシリーズで、彼は1試合6打点のMLBタイ記録を含むシリーズ3本塁打・8打点を記録し9年ぶりの王者奪還に貢献、最優秀選手（MVP）にも輝いた。にもかかわらずヤ軍は彼を放出。「何て薄情なやつらだ」と誰もが思った。そしてメジャーリーグの厳しさ、名門ヤンキースのしたたかさを思い知らされた。しかし、ヤンキースは彼を忘れてはいなかったのだ。「ヤンキースの選手として正式に引退できて本当に光栄に思っている」と喜ぶ彼を見て、思わず神とクリスチャンの関係とダブってしまい泣けてきた。聖書には、神に愛されているにもかかわらず神に放逐された後、また神の元に帰ってくる人物が大勢登場する。それどころか今ここにいるクリスチャン自体が神に放逐されたに等しい状態なのである。なぜならキリストは十字架で殺された後に復活したものの、天に帰ってしまったからだ。残された弟子たちにしたらたまったものではない。しかし、それについてキリストは

「私が行って、あなた方に場所を備えたら、また来て、あなた方を私の元に迎えます。

私のいる所に、あなた方をもおらせるためです。」ヨハネの福音書、14章3節

と説明している。つまり人が神を信じた時、人は永遠の命を約束され神の子とされるものの、暫くは“天”ではなくこの地上で生きて行かねばならない。それは時には不条理で「なぜだ!？」と思うことも少なくない厳しいものだ。時には神に向かって「薄情な」とつぶやくこともある。しかし、諦めずに神の子として一流のプレーをし続ける人々には、やがてキリストが地上に戻った時、「良くやった!」と称えてくださり、“正式”に神の子として迎えてもらえるのだ。そして“本拠地”である天国に帰って大歓声の中、祝宴が始まる。その時が待ち遠しい。でなければ、誰もクリスチャンになったりしない。

2013-8-9

